

平成20年度(第46回) 越馬徳治科学賞 受賞者・受賞校の業績 及び 助成校の紹介

1 個人表彰

金沢市立西南部小学校 教諭 徳成保之

金沢市立伏見台小学校を初任に、同扇台小学校、同中央小学校、同森山町小学校、同押野小学校、かほく市立宇ノ気小学校を経て現在に至る。金沢市個人委託研究で「金沢南部の地層見学コース」についての初の映像機器を利用した発表を行うとともに、県理科教育研究大会でも研究の成果を披露した。学校での理科教育推進に取り組み、金沢市小学校教育研究会理科部会の代表推進委員を務める一方、毎年県発明くふう展において熱心な指導を行い、金沢子ども科学財団児童科学教室の指導員や「理科の学習」の編集委員を務めるなど、幅広く理科教育に貢献している。

野々市町立野々市中学校 指導教諭 山本善明

鳥越村立鳥越中学校を初任に、松任市立光野中学校、河内村立河内中学校、野々市町立布水中学校を経て現在に至る。県理科教育研究大会、日本理科教育学会での発表や「全体評価に基づく学習評価」の執筆など理科学習に関する研究実績がある。指導面では、石川地区中学高校生徒化学発表会への参加や石川郡児童生徒科学作品展の指導を長年行った。また、科学教育研究協議会第55回全国研究大会の大会事務局長や県理科教育研究大会の推進委員なども務め理科教育に貢献している。

金沢市立高尾台中学校 教諭 松原 仁

金沢市立西南部中学校を初任に、同高岡中学校、金沢大学教育学部附属中学校、金沢市立浅野川中学校を経て現在に至る。県理科教育研究大会における提案者、金沢大学附属中学校研究大会授業実践発表、県理科教育振興会理事なども務め、理科教育で多くの活動実績を持つ。指導面では、越馬徳治科学賞学校賞を受賞するとともに、多くの生徒を高峰賞個人賞の受賞へと導く指導を行っている。

石川県立小松高等学校 教諭 端井孝憲

石川県立宇出津高等学校を初任に、同田鶴浜高等学校、同宝達高等学校、同小松工業高等学校を経て現在に至る。継続的に数多くの研究や実践に取り組み、その成果を全国理科教育研究大会をはじめ、北信越理科教育研究大会、県理科教育研究大会などで積極的に発表してきた。中でも平成17年には「光波干渉の数学的解析」の研究により全国理科教育大会において日本理化学協会賞を受賞した。また、理数科課題研究を指導し、理数科三校合同発表会での発表および韓国での英語による発表を成功に導いている。県高等学校教育研究会理化部会では多年に渡り、理事を務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

石川県立小松北高等学校 教諭 小坂 淳

根上町立根上中学校を初任に、石川県立加賀高等学校、同小松明峰高等学校、同翠星高等学校、小松市立高等学校を経て現在に至る。県理科教育研究大会地学部会にて提案発表を4度行い、理科教育の発展に貢献してきた。また、理科総合B実験書（県生物・地学合同部会編）や「ふるさと石川」の執筆をした。金沢こども科学財団主催の講座等で講師を務め、児童・生徒の科学への興味を喚起する活動にも取り組んでいる。県高等学校教育研究会地学部会事務局、県理科教育研究協議会幹事、県科学教育振興会幹事を多年に渡り務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

2 功労者表彰

石川県立加賀聖城高等学校 教頭 畠 一馬

金沢高等学校、石川県立平和町養護学校、同河北台商業高等学校、同野々市明倫高等学校、同金沢泉丘高等学校、同金沢辰巳丘高等学校を経て現在に至る。金沢大学教育工学センター研究プロジェクト研究員として行った「モジュール教材の開発」をはじめ、授業の効果を高める化学教材をテーマに教材開発の研究に取り組んできた。県高等学校教育研究会理化部会の実験書検討委員や特別委員、理事および県科学教育振興会幹事、県理科教育研究協議会幹事を多年に渡り務めるなど、理科教育の推進に貢献している。

3 学校表彰

金沢市立米丸小学校 （校長 三田村 英明）

当該校は、平成10年度から学校体験農園指導事業の指定を受け、一人一鉢や花壇・学校農園での栽培活動を通して、児童が植物に直接触れ経験したことを理科等の学習に活用できるように指導をしている。また、サケの飼育・放流事業の指定を受け地域の環境学習を行ったり、ビオトープ池を作り絶滅危惧種のクロメダカを繁殖させて生物分野の学習に生かしたり、天体観測会を開催するなど、児童が科学に興味を持ち科学する心を育むことができるよう指導してきた。その成果として、毎年県児童・生徒科学作品コンクールや発明工夫展において数多くの受賞者を輩出している。また平成17年度には創意工夫育成功労学校賞を受賞した。

金沢市立紫錦台中学校 (校長 上林 雅彦)

当該校は平成16年度から2年間は「金沢市21世紀型新しい学校づくり推進事業」特定課題モデル校として、平成19年度は金沢市学力向上推進事業指定校、平成20年度からは「学校教育金沢モデル」実践研修モデル校として、生き生きと学校生活に取り組む生徒の育成に努めている。あわせて、平成20年度は、「理数教育における地域型キャリア教育推進事業」推進校の指定も受けている。科学研究に関しても積極的で、生徒たちの理科研究を奨励しており、毎年児童生徒科学作品展や市理科作品研究発表会などに多数の応募をしている。成果として、平成16年度から5年連続で石川県生徒科学作品コンクール優秀賞、4年連続高峰賞個人賞、平成20年度岡文化賞理科部門受賞など、理科教育研究に向けた関心と実績は高い。

石川県立金沢二水高等学校 (校長 加藤 茂芳)

当該校は、化学部を中心に、学校創立以来60年にわたり研究活動を行ってきており、理系の人材育成にも成果をあげている。中でも化学部が平成7年から開始した金沢市内の河川水の水質調査は、平成14年には県の学校活性化マイプラン推進事業にも認められ、現在は全国的にも例を見ない11地点でのCOD・BODの同時測定に発展した。また、平成4年から現在に至るまで、石川地区中学高校生徒化学研究発表会でその成果を発表しており、この間に日本サイエンスジャンボリーでは最優秀校にも選ばれた。全国高校総合文化祭でも発表の実績があり、今後も研究を継続・発展させるとともに発表を行っていくことを目標に意欲的に活動している。

4 学校助成

金沢市立大徳小学校 (校長 森多 勉)

金沢市立大徳中学校 (校長 竹森 孝二)

石川県立金沢西高等学校 (校長 木村 明)

平成21年度に金沢市で開催する第46回石川県理科教育研究大会の公開授業担当校として、小・中・高等学校をつなぐ理科教育を積極的に推進している。